

別紙（中間評価書）

平成 30 年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

通し 番号	4	事業区分：劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業 助成対象団体名：公益財団法人東京都歴史文化財団 施設名：東京芸術劇場
<p>助成対象活動に関する評価</p> <p>（妥当性）</p> <p>東京都が策定した「10年後の東京」の中に文化芸術の振興が位置付けられており、それを踏まえた東京芸術劇場のミッション、ビジョンと事業計画の整合性については明確で、これらの達成に向けて事業が適正に組み立てられていると認められる。</p> <p>大規模で国際的な公演を音楽、演劇、舞踊の3分野において高い芸術水準で実現しており、幅広い世代に向けて国内外へ発信し、子供向けのコンサートをはじめ、専門的な技術とノウハウを学ぶ研修等の開催など中長期的な観点から次代を担う人材の発掘や育成にも積極的に取り組んでおり、助成に値する文化的、社会的意義等が認められる。</p> <p>（有効性）</p> <p>目標の達成に向けて、事業が着実に推移していると概ね認められ、アウトカム発現の可能性に期待が持てる。</p> <p>（効率性）</p> <p>事業はほぼ計画通り実施されており、事業期間は適切であったと認められる。</p> <p>一方、事業費については、概ね適切であったと認められるものの、相当数の活動において、要望時の予算額と報告時の実績額との間で乖離を生じており、今後、より実効性のある予算積算と適切な予算管理が望まれる。</p> <p>（創造性）</p> <p>公演事業においては、日本初演、藤倉大作曲『ソラリス』は、企画段階から現代オペラに挑戦したことが高く評価され独創性・新規性が認められる。舞踊公演では日本を代表する世界的ダンサーの振付と演出により高水準な舞台となり独創性が認められる。演劇公演では認知症を患った主人公を演じるベテラン俳優が好演し、「現代社会の抱える問題をストレートに描く」ことに成功し先導性が認められる。</p> <p>人材養成事業においては、2008年から始めた「エル・システム」による音楽教育は年間を通じて積極的にワークショップを行っていた。障害者を含むインクルーシブな芸術活動ではNHKがドキュメンタリー番組を制作するなど、事業の成果が社会へ浸透し始めている。また、音楽大学との連携、小中高生や若手音楽家を対象にしたアカデミー事業、将来の劇場人材を養成する研修事業など、創造発信型劇場の特性を生かした取組に独創性及び先導性が認められる。</p> <p>普及啓発事業においては、世界唯一の回転するパイプオルガンを有する施設の強</p>		

別紙（中間評価書）

みを活かし、年間 10 回以上のコンサート等を開催し、初来場者数は常に 40%を維持している。レクチャーシリーズでは、公演事業と連動することで、馴染みにくい現代オペラの啓発や障害者の文化芸術活動に対する鑑賞者の興味と関心を深めることに成功しており、先導性が認められる。

藤倉はソラリスを含むこの一年間の活動を評価され、平成 30 年度芸術選奨文部科学大臣新人賞（音楽部門）を受賞した。国際的な視野に立脚し、国内外での活躍が目覚ましい実績あるアーティストや実力派若手人材の起用、話題作の提供、最上級の鑑賞の場の提供など、国内外での評価の向上につながっていると認められる。

（持続性）

組織面では、非正規職員から正規職員への転換を進めており、組織体制の強化がなされている。

財務面では、都との密接な関係を基礎とした安定的な財務基盤の確保がなされている。

以上のことから、組織活動が持続的に発展し、アウトカムの発現・定着が期待できると認められる。

（総 評）

東京芸術劇場の事業計画「舞台芸術の創造現場を魅せる劇場」は、妥当性、有効性、効率性、創造性、持続性において適切に進められていると認められる。

今後も東京芸術劇場が持つ人的ネットワークや指向性、総合的な企画立案力といった自らの強み・特色を活かし、戦略的な事業展開に期待したい。

中間評価結果 (可否のいずれかに○を附す)

継続

可

否